慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	古仁所豊著 最近独逸産業の発達
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.5 (1915. 5) ,p.593(117)- 594(118)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	批評と紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150501-0118

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

を增すのみにして、穀價の下落を來すものに非すと說くものなり。リ氏にありては地主階級あるが爲に、地代騰貴するに非すして、穀價騰貴てふ自然の大則の結果に歸するものなり。要するにリカルドの主張の存する所は、地代は價格騰貴の結果、發生したるものにして、生產費中に計上せらるゝ事無く、賃銀、利潤を控除したる殘額なり、余剩なりと論結するものなり。

第五節　地代と農業の改良進步

リ氏は決して農業の改良進步が、生產力增進に及ぼす效果を輕視するものに非す。否資本の重要なる職分は、無限の人口、有限の土地の調和劑たる作用にありとなし、資本の充用は農業技術の改良進步を促進せしめ、少量の勞量を以て多額の農產物を生產し、價格を低下して消費者全般に利益するものなりと。即ち、土地生產力增大する時は、穀價下落し、劣等地耕作の廢止となるものなり。從而地代下降し、利潤上昇し以て資本の蓄積を增ならしむるものなりと（「原論」四一、四二頁）

然れども彼は土地改良進步の效果を無制限に樂觀するものに非すして土地收穫遞減の法則を一時停止するに止まるものなりとせり。即ち農業技術の改良進步により惹起せられたる利潤の上昇、資本の蓄積は、勞働に對する需要を增加し、茲に人口增殖を見るものなる故、遂に再び穀價の騰貴となる。地代は一時下降して地主は不利益を蒙ることあるも、結局する所、却て人口增殖により穀物に對する需要を擴大するものなり。他面に於て技術上の改良、發明等は一層劣等なる土地の耕作を可能ならしめ、地代騰貴の勢を再現するものなりと（「原論」四三頁註、「影響」三七七頁註）

要するに、生產力の增進はリカルド分配論の全體より見て、一時的第二次的地位を有するに過ぎすして、常に生產力の遞減を前程とするものなり。此觀念は、賃銀、利潤を論するに當りて、特に著しく現はれ、勞働の生產力と賃銀、利潤とは全然沒交涉なるかの如き觀を呈するに至れり。如斯前提は經濟界實際の事實に反する事大にして、從て之れより演繹せられたる彼の分配論の大部は空論たるに終れり。（未完）

批評と紹介

福田德三著『改定經濟學研究』

大正四年三月東京同文館發行
菊版乾坤二卷一二八二頁定價五圓

本書は著者福田博士が去る明治四十年中に上梓せられたる「經濟學研究」を改訂增補して更に此回刊行せられしものなり。載する所は博士が過去十數年間に於て試みし研鑽討究の成果にして、其研究問題には經濟單位發展史論あり、商業道德觀ありツアドルガ（組合）論あり、アグラリウム論あり、ダイス論ありコレギア論あり、丁稚論あり、カルテル、テカリー論あり、ユストム、プレチウム論あり、企業心理論あり、工場法案觀あり、シンヂカリズム論あり、マルサス論あるの外數十篇を數へ、殆んど經濟學の全 segment に亘れるの觀あり。從つて本書は終始一貫せる著述には非ざれども、著者は此數十篇の論文を系統的に分類編聚して前後六篇とし、其中三篇は之を乾卷に收め、他の三篇を坤卷に分載せり。乾卷の三篇は題して「經濟單位發展史研究」、「經濟史雜考」並に「根本概念雜篇」とし、坤卷に收めたる三篇を「基督教經濟學批研究」、「企業勞働及社會問題」及び「マルサス及リカルド研究」と名命せり。

本書の前身たる「經濟學研究」は既に洛陽の紙價を高めたる名著にして、其眞價に就きては吾人の喋々を要せざる所なり。されど、此前身に親むの機會を得ざりし讀者に對して吾人は本書が――未成未熟の書なりとの著者の遜讓的序言ありとは云へ――內外の經濟學者の筆に成る此種の著述中に於て最 Scholarly なるものゝ一に數ふ可く、又本邦人の手に成る同種の書物中に於ては最も crudite なるものたることを告げんと欲す。博士の博識學殖ありて始めて斯くの如き magnum opus. を完成することを得るなり。幾百幾千の讀者中には或は著者の觀察、斷定に對して異議を挾むものなしと云ふ可からざる可きも、幾分にても經濟學的感受性を有する者にして、本書の精讀に依りて刺戟を受けざる者はあらざるならん。然も本書は既に世に定評あり、吾人の紹介の如きは畢竟蛇足たるのみ。

古仁所豐著『最近獨逸產業の發達』

大正四年三月大倉書店發行
菊版二七七頁定價一圓廿錢

獨逸帝國が昨年八月歐洲の列强を敵手として宣戰を布告せしより既に九ケ月、此間其の完備せる交通機關を妙用して朝に四を伐ち夕に東を討ち、未だ敵をして殆んど一步も國內に侵入するを機會を與へざるは其陸軍の組織訓練の優秀なるの事實に職由せずんば非ざるなり。由來獨逸が陸軍の精銳を以て知らるゝ

困なるは茲に喋々するの要なき所にして、獨逸は軍國の Spoo-Ryo たるの觀ありたるが、今日迄に於ける今次大戰爭の結果は其名聲の根柢薄弱ならざりしを證明して餘りありと謂ふ可し。然かも完全なる組織、優秀なる訓練、周致綿密なる準備は獨逸の軍備特有の狀態に非ずして、殆んど有ゆる同國民の活動に於て之を觀ることを得るなり。教育然り、製造工業然り、商業然りとす。

獨逸の陸軍が世界に冠たりとは自他の久しく許せし所なるも、之を實戰に於て證明せしは今次大戰亂開始以後のことなり。然るに、教育に於ては獨逸は夙に他の文明國を凌駕し商工業に於ては其發達初めは英米佛に及ばざりしも、今は此等の先進國を後に瞠若たらしめんとせり。史を按ずるに、武運赫々たる國民必ずしも商工業に成功せず、通商貿易に於て覇を唱へし民族必ずしも精鋭なる軍人ならざりしも、獨逸國民は平和の技術に於ても、將た又戰爭の技術に於ても世界に冠たるの觀あり。

斯くの如き國民が如何なる徑路を經て發達せしかを研究するは夫れ自身に於て趣味あることなるのみならず、其研究者に對して多大の刺戟を與ふるは疑ふの餘地なき所なり。法學士古仁所豊氏の新著「最近獨逸產業の發達」は此問題の研究に對して豊富なる資料を提供せり。著者は先づ簡單に一八七一年前、即ち帝國成立以前に於ける經濟狀態を紹介し、次に其以後に於て商工業が長足の進歩を遂げたるの徑路を詳說し、轉じて此大發展の原因を尋ね、其主なるものとして實業教育を擧げて、其種々の制度を細說し、最後に勞働者の狀態を說述せり。全篇精細なる無數の統計表を掲げて論證に備へたり。而かも其配置宜しき得たるが爲め讀者をして毫も倦怠の念を起さしめず。記述又簡明にして要を盡せり。

されど著者の見地と結論とに就きては讀者の中に異說を懷ける者あるも可し。例へば、著者は米國產業の大發展を以て自然の結果とし、「寧ろ人爲に俟つ處少くして其間特に研究の餘地殆と無きが如しと」斷じ（一一二頁）之に反して、獨逸產業の著しき發達の原因をば主として獨逸民族の國民性と實業教育に求めんとせるが如きは異論の存する處なる可し。（第四—五章）

又著者が有益なる種々の統計を集收採錄せられたる努力に對しては吾人の大に感謝せざるを得ざる所なるも。唯憾むらくは統計表の體裁の一樣ならざることなり。例へば、或る表には最近の數字が其初頭に擧げられ、他の表に於ては其末尾に加へられたるは通覽を便にする所以に非ざるが如し。又、卷尾に我國の帝都即ち東京市に於ける物價並に賃銀に關する都合七葉の統計表は夫れ自身に於て頗る有益なるものなりと雖も、獨逸帝國の產業發達史の附錄としては聊か不似合の觀なき能はず。然かも此等は望蜀の念より來れる蕪辭に過ぎず。吾人は獨逸問題研究の一好參考書として推擧するに躊躇せざるものなり。

安部磯雄著『最近の社會問題』

大正四年四月東京日月社發行
四六版一八六頁定價六十五錢

社會問題の研究を以て世に名ある早稻田大學教授安部氏の近業たる本書は社會問題の意義と其解決に對して簡明なる說明と著者自身の意見を載せたる一小快著なり。著者は社會を以て人の身體に譬へ、社會學をば生理學と對比し、人に疾病あるが如く、社會にも貧困なる疾病あるを說き、人の病氣を醫するに應急手段と外科手術との二方法あるが如く、社會の疾病を救濟するにも社會政策なる應急手段と社會主義なる外科手術ありと論じ、次に貧困の原因は主として無智と惡に在りと爲し、統計を擧げて富の生產消費方法上の缺陷を詳說し、此缺陷より生ずる富の分配の不公平、不平均なるの狀態を指摘せる後、社會の弱者の保護に對する所謂應急手段たる慈善事業、資本家と勞働者との調和、工場法、勞働保險、職工組合等に關し內外諸國の實例を引證し、轉じて社會問題解決の外科手術たる社會主義に論及し、先づ之に政治的方面と經濟的方面の別あることを指示したる後、本書に於ては單に經濟的方面より觀たる社會主義を論評せんとするものなりと前提して、社會主義者の唱ふる共產組織の長所を說明し、之に依れば貨物の生產を大に增加すると同時に勞働時間を短縮することを得、從つて社會各員の幸福を增進することを得可しと論じ、終りに社會主義の下に於ける富の分配方法は均分を以て良策とす可しと結論して卷を結べり。

本書は二百頁に足らざる一小册子なりと雖も。社會問題の根本意義と其解決上の手段に就きて一般的概念を得んと欲する者には稀有の好參考書なり。されば、吾人は著者とは多少見解を異にせる所なきにしも非されども、之を江湖に推擧するの榮を有するを欣ぶ者なり。